

与謝野町長 山添 藤真 様

与謝野町多様性を尊重し合う共生社会づくり検討委員会

委員長 渋谷 節子

多様性を尊重し合う共生社会づくりの推進に関する答申（案）

令和5年10月27日付け5与住税第372号により諮問を受けた「多様性を尊重し合う共生社会づくりの推進について」、計6回にわたる審議をした結果を下記のとおり答申します。

記

1. 多様性を尊重し合う共生社会づくりを推進するための基本的な考え方

与謝野町においては、既に人権教育・啓発推進計画をはじめ、男女共同参画計画、障害者基本計画、子ども子育て支援事業計画等が策定され、それぞれの個別計画において目標、理念、基本方針といった大きな方向性が示されており、計画に基づき様々な取組が進められています。

また国では、性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律（通称：LGBT 理解増進法）が施行される等、人々が持つ様々な違い（多様性）を理解・尊重する社会づくりが進んでいます。このような背景の下、与謝野町においても、すべての住民が安心して暮らせる共生社会の実現に向けた取組をさらに深める必要があります。

一方で、現代の社会では、依然としてマジョリティ（社会において主流派に属し、意見が社会の決定に反映されやすい人々）が優位となりやすい社会構造があり、マイノリティ（社会において非主流派であるため意見が社会に反映されにくい人々）の意見が生活に十分に反映されにくく生きづらくなっているという状況があります。

この状況は、障害者や外国人、性的少数者といった人口の少ない属性の人々だけでなく、女性や子ども、高齢者といった社会的に弱い立場に置かれやすい人々にも当てはまります。

また、与謝野町における「多様性を尊重し合う共生社会づくり」を推進する上で、マジョリティ中心の社会のあり方を問い直し、誰もが参加できる社会の実現に向けた施策を図る必要があると考えます。

（１）目指す共生社会の姿

◆すべての人の尊厳と平等が守られる社会

すべての人が、その背景や特性にかかわらず、尊厳を守られ、平等に権利が保障される。

◆相互支援の意識が醸成された社会

コミュニティ内で住民同士が互いを支え合い、行政と連携して課題解決に取り組み相互理解を深める仕組みが整備されている。

◆誰もが自分らしく生きられる社会

誰もが自身の居場所を実感し、安心して快適に生活できる環境が整備されている。

◆偏見や差別がない社会

偏見や差別が存在せず、「心と社会のバリアフリー」が広がる。

◆多様性を尊重する制度が整備された社会

多様性を尊重するための仕組みや制度が確立され、地域全体で共有されている。

(2) 現状・課題

多様性を尊重し合う共生社会を推進する上で、以下の現状と課題があります。

与謝野町の現状と課題

- ◆人権について対話する場が不足している。
- ◆大人の人権教育への関心が低く、学びの機会を提供しても参加者が少ない。
- ◆マイノリティが抱える生きづらさを、マジョリティが十分に理解していない。

具体的な課題

- ◆子ども:家庭や地域のネットワークが弱体化しており、いじめや虐待等早急に対応できる機能的な体制が求められている。
- ◆高齢者:地域で活躍する場が不足し、住み慣れた地域で過ごすための支援、社会基盤等が十分でない。
- ◆障害者:合理的配慮の考え方が十分に広まっていない。また、個々の状況に応じた対応が求められている。
- ◆女性:地方特有の古い固定観念が根強く残り、社会進出や地域定住、男女共同参画が進んでいない。また、女性には性別に起因するさまざまな暴力の問題が存在している。
- ◆性的少数者:パートナーシップ制度を利用する際の心理的な障壁が高く、社会の理解も十分ではない。
- ◆外国人:言語の壁や文化的な違いが、地域社会への参加を困難にしている。

(3) 推進するための基本的な考え方

- ◆多様性を尊重する意識を醸成する機会の創出
- ◆人としての尊厳を尊重し、自律性を高める教育・啓発の推進
- ◆社会的制度による共生社会の実現

2. 多様性を尊重し合う共生社会づくりを推進するための取組

多様性を尊重し合う共生社会づくりを推進するために、前章で示した「多様性を尊重し合う共生社会づくりを推進するための基本的な考え方」にのっとった取組を行う。また、それらの取組を行うことにより相乗効果を生み出すことが重要と考えます。

本検討委員会では、一人ひとりが様々な違いがある個人として尊重され、互いに認め合うことができる共生社会を実現するため、以下の取組を提案します。

(1) 多様性を尊重する意識を醸成する機会の創出

多様性を尊重するためには、まず、住民が異なる価値観や背景を持つ他者の存在を知ることが重要です。異なる属性の人々が交流し、互いの違いを理解する機会を設けることで、偏見や無意識の差別を解消し、地域全体で多様性を理解し、肯定的に受け入れる意識を醸成します。

具体的な取組

- ◆日常的な地域交流とイベントの実施
- ◆意見交換の場の創出
- ◆広報活動の強化

(2) 人としての尊厳を尊重し、自律性を高める教育・啓発

子どもから大人まで、すべての世代が多様性を学び理解し、人権を尊重する姿勢を身に付けることを目指します。また、家庭や職場、地域など、あらゆる場面で多様性の尊重を実践するための知識や意識を高めます。

具体的な取組

- ◆生涯を通じた人権教育・啓発を根気強く継続
- ◆学校・PTA、地域、関係団体や企業と連携した効果的な研修・周知活動の実施
- ◆すべての人が取得しやすくわかりやすい情報の提供
- ◆マイノリティを理由とした暴力や不当な差別的取扱いを防ぐための啓発強化
- ◆地域社会における人権教育・啓発のリーダーの育成

(3) 社会的制度による共生社会の実現

多様性を尊重し合う共生社会を実現するためには、個人の意識や教育だけでなく、具体的な政策や制度が整備される必要があります。広く多様な立場の意見を収集し、政策や制度を積極的に整え、それを住民に周知することで多様性を支える環境を築きます。

具体的な取組

- ◆多様性を尊重し合う共生社会づくりを推進する例規・環境・施設の整備
- ◆相談窓口の整備と連携強化

3. おわりに

本検討委員会では、与謝野町が目指す「多様性を尊重し合う共生社会」の実現に向けた基本的な考え方、必要な取組を多様な立場の委員が議論を重ね、答申を取りまとめま

した。

しかしながら、与謝野町には約 2 万人の住民が暮らしており、すべての住民の意見を十分に反映できたとは言えません。今後、本答申を基に、多くの住民の声を取り入れながら施策を展開し、多様な背景を持つすべての住民が安心して暮らせる地域となることを願っております。

本答申が、与謝野町の未来をより豊かで住みやすいものとする一助となることを期待し、ここに提言します。

以上